

Akitakata

人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」

NO.153
11
2016.NOV



(今月の主な内容)

- 2 平成 27 年度決算報告
- 6 平成 28 年度安芸高田市の「仕事目標」上半期進捗状況
- 9 「ふるさと納税」リニューアルしました
- 28 特集 広報「あきたかた」が変わります

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5627 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/



秀岳院跡推定地(東側より撮影)



周辺位置図



萩秀岳院跡地(萩市平安古町、現高校プール)



興元公幸松丸君御廟之図(山口県文書館蔵、西側より描く)

位置・江戸時代の絵図類と現地を比較すると、秀岳院や興元・幸松丸の墓所伝承地は可愛川(江の川)の土手脇の平坦地(現住吉神社あたり)と推定されています。ちようどこは現存する古道「たて縄手」の東端にあたりが、河原の脇であり若干疑問が残ります。また、郡山本城には興元の父弘元の時代から山上に住んでいたと考えられますが、秀岳院の敷地に幸松丸の屋敷があったのは当時の史料がなく不明です。

墓所・興元と幸松丸の墓所は、寺が萩に移転後も吉田の秀岳院跡地に残り、江戸時代の地誌や絵図等にも記載されています。記録によつては、五輪塔や南天の木があったともありますが、荒廃し、明治2年(1869)に毛利元就墓所下段の現在地に移葬されました。に毛利元就の墓所と現地を比較すると、秀岳院や興元・幸松丸の墓所伝承地は可愛川(江の川)の土手脇の平坦地(現住吉神社あたり)と推定されています。

寺史・「防長寺社由来」によると、興元が24歳で他界した際(1516年)に、三吉郡寺田村(不明)にあった元満寺を興元の菩提寺として吉田に移転し、法名から秀岳院となりました。さらに、1523年に長男幸松丸が9歳で他界し、幸松丸の土居屋敷であった地に寺を移したとあります。その後は元就以降の当主に庇護され、1551年に元就と隆元から国司(現吉田町国司)の一部が寺に寄進された書状が残ります(本企画展に出展)。江戸時代には萩へ移りましたが、明治時代に廃寺となりました。記録では興元、幸松丸さらに興元の妹(八幡上様の位牌がありました)が、現在不明です。

ガイド
標高/199m
史跡指定/未指定
建立者/毛利氏
所要時間/博物館から徒歩15分

今年度は毛利元就の兄、興元の没後500年ですが、興元の関係史跡ではこの菩提寺跡があります。ただしあくまで推定地で、現状地形からでは判断できません。

毛利興元展関連特集号

安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 秋本哲治



- 今月の表紙
- 歴代広報11月号です。広報紙の表紙を見ると、その時期の取組や歴史を知ることができます。内容を詳しくご覧いただきたい方は、市のホームページで閲覧できます。(表紙の解説)
- 2004 支所別懇談会
 - 2005 防犯ブザー
 - 2006 安芸高田アグリフーズ弁当
 - 2007 自衛消防隊消防競技大会
 - 2008 インターナショナルスクールの交流
 - 2009 こうだわいわい祭
 - 2010 お太助ワゴン
 - 2011 消防防災フェスタ
 - 2012 お太助フォン
 - 2013 歴史民俗博物館
 - 2014 自主防災組織
 - 2015 JR三江線利用